**近畿大学の思い出**

**小野　誠治**

**大学時代、一番思い出に残る試合は**1975**年の全日本学生王座決定戦の団体戦です。東日本のチャンピオンの中央大学と西日本のチャンピオンの近畿大学で日本一をかけて試合をしました。現在は個人戦のみですが、当時は団体戦と個人戦の**2**種目ありました。**

**試合方式は**1**ダブルス** 6 **シングルスの**4**点先取** **で、当時**1**年生だった私のオーダーは**6**番目でした。私の順番が回ってきたときは**2**対**3**で負けていて、私が負けると近畿大学が負けてしまう状況でした。**6**番で戦う中央大学の選手は、昨年度の全日本選手権大会でベスト**4**に入っていた山下選手でした。ベンチコーチをしていた高島さんからは私が負けると近畿大学が負けてしまう状況でありながらも「頑張ってこい」ではなく「勝ってこい」でもなく「打ちまくってこい」という意外なアドバイスでした。その一言で気持ちが楽になり、アドバイス通り本当にスマッシュを打ちまくれたことを記憶しています。山下選手との試合は接戦ではありましたが**2**対**0**のスコアで勝つことができました。私が勝ったことでラストの選手につなげることができ、最終的には**4**対**3**で近畿大学が優勝することができました。**

**私もチームの優勝に貢献出来たことを今でも嬉しく思っています。また、最高のアドバイスをしていただいた高島さんには感謝しかありません。**

**初めて団体戦で日本一になれたことがその後の卓球人生に大いに活かされたと思います。私は団体戦という責任を感じる試合が大好きです。**